

後藤哲也(ごとうてつや)先生のプロフィール

国立小倉病院精神科、国立肥前療養所、牧和会牧病院を経て、昭和57年より 心和堂後藤クリニック を福岡市で開業。

専門領域は精神科、神経科、内科。



◆先生が初めて漢方と出会われたのはいつ頃ですか

昭和51年頃、重度知的障害児病棟で多剤耐性赤痢菌による赤痢が発生し、あらゆる抗生物質が無効で、西洋医学に失望しました。その時梅肉エキスを全員になめさせて、再発を予防したのが漢方に興味を持ったきっかけです。

◆先生の御専門で漢方はどのような効果を発揮していますか

検査をしてどこも異常がないのに症状が続く場合、漢方が有効な場合が多々あります。

◆普段の治療で漢方薬と西洋薬との割合はどれくらいですか

漢方単独治療、漢方と西洋薬の併用治療、西洋薬単独治療それぞれ3分の1ずつです。

◆10年後の漢方医療はどうなっている(またはどうあってほしい)とお考えですか

医師にも患者にも漢方治療の知識と経験が蓄積され、無駄のない適切な漢方世界が展開されるよう期待しています。

◆先生ご自身漢方を飲んで効果を実感なされたことがありますか

風邪をひきそうになった時、参蘇飲という漢方薬を飲むとそのままおさまるので大変重宝しています。



◆これから漢方医を志す方に一言お願いします

- 1、漢方は「効いた」という実感の積み重ねです。
効果が得られ易い2、3味の薬からまず使ってみてください。
(エキスが保険で使えます)
- 2、地域の漢方研究会に入って仲間で勉強してください。



◆漢方に関心のある一般の方に一言お願いします

漢方は万能ではありません。漢方医学、西洋医学共に向き不向きがありますので、何でも「漢方」主義は危険です。

◆座右の銘、好きな言葉などありましたら教えてください

「待てば海路の日和かな」



注意:先生へのインタビューは、当会が2003年1月に行った内容です。